

相談援助演習 I

担当教員 増田 公香

配当年次 2年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

【授業のねらい】

相談援助の知識と技術に係るほかの科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができることをめざす。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレーイング等）を中心とする演習形態により実施する。

【授業の展開計画】

- 01 オリエンテーション。シラバスの説明。アイスブレイキング(自己紹介を含む)
- 02 相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解。個別指導及び集団指導の意義、方法の理解
- 03 グループダイナミクス活用（演習形態を含む）における他者認知と自己覚知の意義、方法と内容の理解、技術習得
- 04 基本的なコミュニケーション技術の実技指導①コミュニケーションの種類
- 05 基本的なコミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
- 06 基本的なコミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
- 07 基本的なコミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
- 08 基本的な面接技術について実技指導を通して習得①面接の過程（記録の技術）
- 09 基本的な面接技術について実技指導を通して習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
- 10 基本的な面接技術について実技指導を通して習得③アセスメント(課題の発見・分析・解決の技術)
- 11 基本的な面接技術について実技指導を通して習得④プランニング
- 12 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑤支援の実施とモニタリング
- 13 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥効果の測定
- 14 基本的な面接技術について実技指導を通して習得⑥終結とアフターケア
- 15 まとめ

【履修上の注意事項】

小集団による話し合いやグループワークを行うので、積極的に参加することを求める。本演習では、社会福祉士、精神保健福祉士の国家資格の取得を前提とし、専門職として就労することを目標にする学生が望ましい。また、指定された課題について、あらかじめ調べ準備を整え、不明な箇所については自身で調べ直す予習復習を求める。

【評価方法】

授業態度・発表の内容・技能習得状況が50%、予習復習による自主的学習態度・状況が10%、課題の内容・提出状況・学期末時の課題が40%による総合評価とする。

【テキスト】

【参考文献】

随時指示する。

相談援助演習 I

担当教員 橋本 眞奈美

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①社会福祉士・精神保健福祉士に求められる具体的な援助場面を想定した実技指導を通して、相談援助に係る知識や技術を実践的に習得することができる。
- ②相談援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶことで、相談援助を概念化、理論化し、体系立てて捉えることができる。
- ③相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性を把握することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、アイスブレイキング（自己紹介を含む）
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性についての理解、個別指導と集団指導の意義と方法
3	他者理解と自己覚知の意義と方法の理解、加えて技術を取得
4	基本的コミュニケーション技術の実技指導①コミュニケーションの種類
5	基本的コミュニケーション技術の実技指導②小集団の性質
6	基本的コミュニケーション技術の実技指導③対人コミュニケーションの性質
7	基本的コミュニケーション技術の実技指導④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導と習得①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導と習得②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導と習得③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導と習得④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導と習得⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導と習得⑥効果の測定
14	基本的な面接技術について実技指導と習得⑦終結とアフターケア
15	インテークからアフターケアまでの援助過程の振り返りと要諦の整理

【履修上の注意事項】

社会福祉士国家試験受験資格希望者は、必ず2年次1学期から履修すること。
グループでの話し合いでは、進んで発言することが望まれる。授業の前には配布されている資料を熟読しておくこと。授業後は専門用語の確認と授業内容を振り返っておくこと。

【評価方法】

授業態度、積極的姿勢から20%
課題レポートの提出&内容から30%
試験から50%

【テキスト】

『ソーシャルワーク基本用語辞典』 2013年刊 川島書店

【参考文献】

必要に応じて配布、もしくは指示する

相談援助演習 I

担当教員 福崎 千鶴

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

他の科目との関連性を視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基本的な知識、技術、価値を理解する。また、専門的な実践能力をつけるために、専門的援助技術を習得する。①総合的かつ包括的な相談援助について理解し、考察することができる。②地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学び理解することができる。③個別指導および集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング、モデリング等）を中心とする演習形態により専門的援助技術を習得する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、アイスブレイキングを通して基本的なコミュニケーション技術を習得する
2	相談援助の知識と技術に係る専門科目との関連性の理解。個別指導・集団指導の意義、方法の理解
3	グループダイナミクスを活用した小集団活動における自己と他者の理解
4	基本的なコミュニケーション技術の実践①コミュニケーションの種類を理解する
5	基本的なコミュニケーション技術の実践②小集団の性質を理解する
6	基本的なコミュニケーション技術の実践③相談援助に伴う意図的な対人コミュニケーションの理解
7	基本的なコミュニケーション技術の実践④チームアプローチの手法について学ぶ
8	基本的面接技術の実践①面接の過程（記録の技術）に伴う専門的技術を習得する
9	基本的面接技術の実践②インタビュー（情報の収集・整理・伝達の技術）について理解する
10	基本的面接技術の実践③アセスメント（課題の発見・分析・解決の技術）について理解する
11	基本的面接技術の実践④プランニングを行う
12	基本的面接技術の実践⑤支援の実施とモニタリングを行う
13	基本的面接技術の実践⑥効果測定について理解する
14	基本的面接技術の実践⑦終結とアフターケアについて理解する
15	基本的面接技術の実践について総合的な理解を深める

【履修上の注意事項】

グループ学習を通じて、相互に意見交換しあいながら授業課題に主体的に取り組むこと。

事前に与えられた課題に積極的に取り組むこと。

授業後に復習しておくこと（120分程度）。

学生状況をみながら、フィールドワークや特別講師による講話などを取り入れ、相談援助専門職としての基本的な知識・技術・価値・倫理などの実践力を修得する。

【評価方法】

出席日数（3分の2以上）があり、授業態度（予習・復習を踏まえた発表など）50%及びレポート提出等50%により評価する。

【テキスト】

使用しない

【参考文献】

参考文献は授業中に随時紹介する。

相談援助演習 I

担当教員 田島 望

配当年次 2年

単位区分 選択

開講時期 第1学期

授業形態 演習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

相談援助に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に学ぶ。②具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）やグループワークを中心とする演習形態にて実施し、必要な技術等について具体的にイメージできる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	シラバスの説明、アイスブレイキング。
2	相談援助の知識と技術に係る他科目との関連性の理解、個別指導及び集団指導の意義、方法の理解。
3	グループダイナミクスを活用した他者理解と自己理解（自己覚知）
4	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ①コミュニケーションの種類
5	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ②小集団の性質
6	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ③対人コミュニケーションの性質
7	基本的なコミュニケーション技術の実技指導 ④チームアプローチ
8	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ①面接の過程（記録の技術）
9	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ②インテーク（情報の収集・整理・伝達の技術）
10	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ③アセスメント（課題の発見・分析等の技術）
11	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ④プランニング
12	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑤支援の実施とモニタリング
13	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑥効果測定
14	基本的な面接技術について実技指導を通して習得 ⑦終結とアフターケア
15	ふり返りとまとめ

【履修上の注意事項】

- ・講義と実習をつなぐ重要な科目であることを理解して取り組んでください。
- ・次回の講義内容をよく確認し、テキスト等を読んで講義科目の復習を行っておくこと（60分）。
- ・演習後は内容についての復習を行い、分からなかった専門用語等を調べておくこと（60分）。
- ・演習形態での授業のため、各回のグループワークやロールプレイ等への主体的な参加（発言）を求めます
- ・毎回の講義を積み上げていきますので、出席は必須と考えてください。

【評価方法】

演習の参加態度と授業内の課題への取り組み（40%）、課題レポート（30%）、学期末総合課題（30%）により評価します。

【テキスト】

講義内にて、適宜紹介・配布します

【参考文献】

講義内にて、適宜紹介します